



2011年6月より、信州大学医学部医学科海外研修支援制度の援助を受け、ドイツ Frankfurt am Main の Johan Wolfgang Goethe Universität の Klinik für Neurochirurgie (脳神経外科) に留学しています。ドイツにはもう1つ旧東ドイツに Frankfurt という名の都市があります。「Main 川のほとり」という意味で am Main をつけて区別しますが、「フランクフルト」と言えばたいこちらを指し示すものと思われる。Frankfurt 自体はおおよそ60万人強、周辺都市圏を含めると200万人の人口規模です。ヨーロッパ連合 (EU) の中央銀行やそのほか多くの金融機関が集まり、金融の町あるいは、毎年10月に開かれる book messe (出版の見本市) で有名でもあります。今年は FIFA の女子サッカーワールドカップの準決勝戦、決勝戦の会場にもなり、その時期には Main 川沿いに public viewing のステージが設営され、試合のある夜は盛り上がり上がっていました。しかし、日本がドイツに勝った準々決勝戦はテレビも周りのドイツ人もかなり肩を落としていました。かつて男子日本代表がワールドカップ予選で敗退した「ドーハの悲劇」のような扱いでした。それほどサッカー熱が高いということでもあるのでしょう。

さて、大学病院も Main 川沿いにあります。キャンパス内に診療科ごとの建物が点在しています。Neurochirurgie (脳神経外科) は神経内科 (Neurologie) と神経放射線科 (Neuroradiologie), Neuroonkologie とが合わせて Haus 95 という1つの建物 (Zentrum für Neurochirurgie und Neurologie, ZNN) にあります。施設は手術室が3室、3テスラ MRI が2台、Gamma Knife も併設され、ZNN 専用の heliport が建物の目の前にあります。ZNN の建物の隣には整形外科 (Orthopädie Klinik) や精神科 (Psychologie), Ambulate Rehabilitation の建物があります。建物それぞれが、診療科として独立しているので患者の

移送が必要な場合は専用の輸送車で移動し転科ということになります。また、同じキャンパス内に Max-Planck-Institute für Hirnforschung (Max-Planck 脳研究所) があります。

脳神経外科は Professor Seifert を中心にレジデントを含めると20名強の陣容で3つの手術室を使い、1日に5-8件程度の手術が行われています。Professor Seifert は脳動脈瘤の手術、術中 MRI による神経腫瘍の手術で高名です。近年、運動誘発電位や体性感覚誘発電位など各種誘発電位を用いた術中神経機能モニタリングは機能温存を目指した脳神経外科手術には不可欠なものとなっています。ここで私は、術中モニタリングを担当している Dr. Szelényi とともに脳神経外科手術における術中視覚誘発電位モニタリングについて研究しています。視覚誘発電位の最初の報告は数十年前にさかのぼりますが、術中モニタリングの中では比較的新しい分野です。カンファレンスはもちろんドイツ語ですが、提示される画像を見ておおよその内容は見当がつきます。滞在開始から1カ月経ち、数字やキーワードを聞きとれるようになると、カンファレンスの内容の理解が少しずつできてきましたが、まだ不十分です。日本の臨床で使っている言葉の中にはドイツ語由来の隠語や略語が登場しますが、それらの由来を時おり見聞します。必要な時には英語で話しますが、それ以外はドイツ語に囲まれています。

日々の暮らしは、治安はよくトラムなど public transport が充実し生活しやすい都市です。食料品には7%その他には19%の消費税がかかりますが、食料品の物価は日本より安く、また、ペットボトル・ガラス瓶には購入時に預かり金が増えられリサイクル率を高める制度が整っています。ドイツは平地が多いこと、サイクリングロードが整備されていること、環境保護意識が高いことからか、老若男女、多くの人々が自転車を移動手段に使うことが多いようです。鉄道網が充実していること、電車がさほど混んでいないこと、電車にも簡単に自転車を搭載できることもその理由なのかもしれません。また、緯度が高く、サマータイムが採用されていることから夏は22時ごろまで明るく、夕方から Main 川でボートやヨットを楽しんだり、川沿いでジョギングしたりする人も多いです。夏真っ盛りでも最高気温は25度程度で、風があるためか、さほど蒸し暑くなく、非常に過ごしやすい環境です。

最後になりましたが、このような貴重な機会をいただいた本郷一博教授はじめ脳神経外科教室諸氏に感謝いたします。

(2011年7月)  
(信州大学医学部脳神経外科学講座所属)